

ホソバシャクナゲ *Rhododendron makinoi* Tagg. ex Nakai (図版 1)

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 12。本地域を代表する固有種で、鳳来寺山系の植物の象徴的な存在であり、鑑賞価値も高い。

【形態】

常緑性の低木。幹はよく分枝し、枝を横に広げ、高さ 2~3m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は細長い楕円形、長さ 7~18cm、幅 1~2cm、先端はとがり、下部はくさび形で葉柄に流れ、革質で全縁、表面は無毛、裏面は綿毛状の毛が厚く密生して淡褐色~赤褐色になる。花期は 5 月、枝先に短い総状花序をつくり、5~10 個の花をつける。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 5 中裂し、直径 4~5cm である。果実はさく果で短い円柱形、長さ 10~15mm、幅約 6mm、褐色の毛が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 53977, 1994-9-23)、7 設楽東部 (小林 53633, 1994-9-10)、8 鳳来北東部 (加藤等次 1293, 1992-4-25)、9 鳳来南部 (小林 59333, 1996-5-6)。県内では東三河東部の鳳来寺山周辺に分布している。やや離れて 4 津具にもあるが、標本を採取していない。

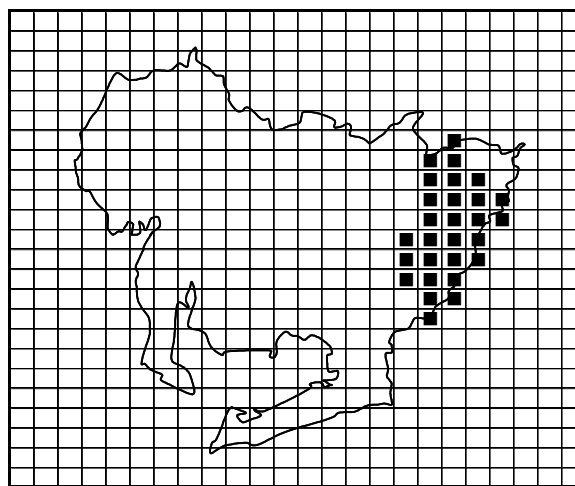
【国内の分布】

本州 (静岡県西部、愛知県東部)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場など、急峻な地形の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、その中では比較的多い。しかし、上層の樹木の生長につれて光条件が悪化し、衰退傾向にある場所も少なくない。園芸目的の採取は皆無ではないが、急峻な地形であり、地元の関心も高く、現在のところ大量に盗掘されるおそれは少ない。むしろ、本来生育していないようなあちこちの場所に苗木が植えられていることの方が問題である。

【保全上の留意点】

地形の変更を伴わない適度な伐採は、本種の存続にとってかえって好都合と思われる。

【特記事項】

エンシュウシャクナゲとも呼ばれ、「日本の野生植物」木本編Ⅱではこの名が見出しとして使われている。他のシャクナゲ類に比べて、葉が細いのが特徴である。津具の自生地は、県指定天然記念物として保護されている。

【関連文献】

保木本Ⅰ p.171, 平木本Ⅱ p.145, 平新版 4 p.237, 環境省 p.466, SOS 旧版 p.68+図版 6.